〔源氏物語二篇木〕心深しやなどほめたてられて、あはれ進みぬれば、やがて尼になりぬかし、思ひ立程はいと心すめるやうにて、世にかへり見すべくも思へらず、略○中つかふ人ふるごたちなど、君の御心はあはれなりけるものを、あたら御身をなどいふに、自らひたひ髪をかき探りて、あへなく心ぼそければうちひそみぬかし、

〔河海抄一篇木〕ひたひ髪　垂尼事也

〔花鳥餘情篇木〕昔の尼はたれ尼といひて、額髪を喝食などのやうに挾むなり、さるによりてひたひ髪をさぐるとはいふなり、

〔百練抄七二條〕長寛元年十二月廿六日、此日皇嘉門院后○崇德聖子御出家、年來令垂給、今日被剃頭、

〔女院小傳〕皇嘉門院藤聖子崇德后、○略中保元元、十、十一垂尼、清淨惠長寛元、十二、廿六爲尼、四十二

〔榮花物語五浦々の別〕長德二年四月廿四日なりけり、帥殿○藤原伊周はつくしのかた成ければ、ひつじさるのかたにおはします、中納言殿○伊周弟隆家はいづものかたなれば、たんばのかたのみちよりとて、いぬゐざまにおはする、御くるまひきいづるまゝに、みや○伊周弟、一條后定子、は御はさみして御てづからあまに成給ぬとそうすれば、あはれ宮はたゞにもおはしまさゞらんものを、かくものおもはせたてまつる事とおぼしつゞけて、涙こぼれさせ給へば、玄のびさせ給、

〔日本紀略十一條〕長德二年五月一日庚子、今日皇后定子落飾爲尼、

〔百練抄四一條〕長德二年五月一日、今日中宮出家爲尼、中宮定子依帥○藤原伊周事出家、六月廿二日入內、人以不甘心、

出家後再入內

〔增鏡十六久米のさら山〕中宮○後醍醐后藤原禧子は、其まゝに御ぐしもたぐる時もなく、沈みたまへる御有さまいとことはりに、遠き御別れ○先是天皇幸隱岐、故云、の哀しさにうちそへて、御むねのひまなくおぼしこがる、后の位もとゞめられたまひて、院號の定めなど人の上のやうにほのかに聞しめす、うれし